



千葉大学と横浜国立大学が協定締結

－防災・減災と環境保全をはじめとする学術研究・教育等における連携－

国立大学法人千葉大学（学長 中山俊憲、以下「千葉大学」）と国立大学法人横浜国立大学（学長 梅原出、以下「横浜国立大学」）は、相互の連携・協力に関する協定を締結しました。

■協定の目的

両学の特色を活かした交流を図り、学術研究及び教育等において連携を推進し、両学の一層の発展に資することを目的としています。

■協定の内容

（1）防災・減災及び環境保全に向けて連携し、脱炭素社会の実現へ

千葉大学の「環境リモートセンシング研究センター（CEReS）」「災害治療学研究所」「大学院園芸学研究院」と横浜国立大学の「台風科学技術研究センター（TRC）」「大学院環境情報研究院」「大学院都市イノベーション研究院」などの特色や機能を活かして、台風などの災害リスク低減や、地球環境・生態の保全に向けて横断的に連携し、脱炭素社会実現への貢献を目指します。



環境リモートセンシング研究センター
Center for Environmental Remote Sensing

等



台風科学技術研究センター
Typhoon Science and Technology Research Center

等

【千葉大】環境リモートセンシング研究センター（CEReS）

衛星によるリモートセンシング研究の中核的センター。衛星データをはじめとする気象等の観測データを処理・アーカイブ・公開し、関連分野の幅広い研究活動を通じてその科学的活用を図る「総合環境情報拠点」として、1995年4月に発足。

【横国大】台風科学技術研究センター（TRC）

日本初の台風専門研究機関。台風災害リスクの低減による安全・安心で持続可能な社会の実現、再生可能な台風エネルギーの活用による脱炭素社会の実現を目指し、2021年10月に発足。

（2）学術研究成果から社会価値創出へ

イノベーション・エコシステム（間接経費→基盤研究→応用研究→イノベーション創出）を推進する千葉大学「学術研究・イノベーション推進機構（IMO）」と知の創出の循環システム（研究力向上に貢献できるマネジメント手法の最適化に係る知見の集積と活用）を推進する横浜国立大学「先端科学高等研究院（IAS）」が連携し、両学の様々な学術研究成果を新技術の創出や地域連携の活性化、ベンチャー支援等の形で社会貢献へと繋げていきます。



学術研究・イノベーション推進機構
ACADEMIC RESEARCH & INNOVATION MANAGEMENT ORGANIZATION



Institute of Advanced Sciences
先端科学高等研究院

【千葉大】学術研究・イノベーション推進機構（IMO）

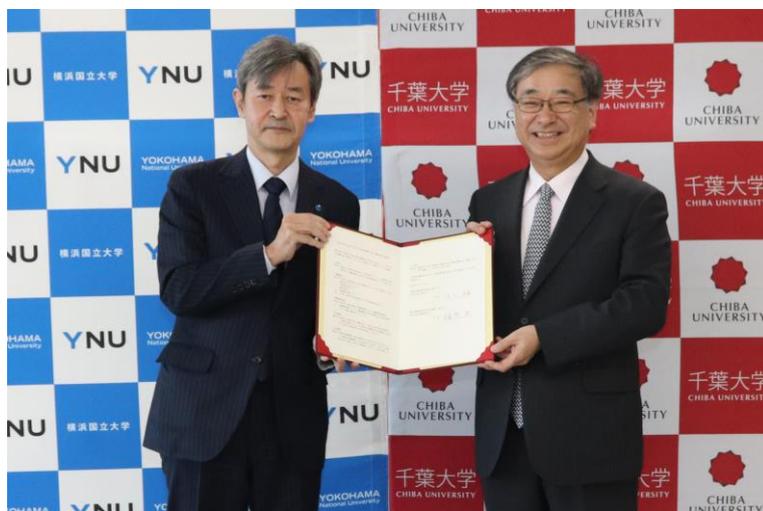
産学官連携に必要な機能を集約し、研究成果や技術・知的財産・人材を活かした共同研究・受託研究の実施、新たなシーズの育成、ベンチャー支援、地域産業との連携強化等を推進することを旨とし、2020年4月に発足。

【横国大】先端科学高等研究院（IAS）

リスク共生の考え方にに基づき、21世紀社会におけるリスクへの合理的な対応の在り方や安全・安心で活力ある持続可能社会の実現に供する研究拠点として、2014年10月に発足。

(3) その他

両学間で連携推進会議を設置し、東京湾を挟んでアクアラインで繋がっている国立大学同士として、あらゆる学術研究、教育、地域貢献等に関して連携や協力の可能性を探っていきます。



協定調印式の様子

横浜国立大学長 梅原 出 (左) と千葉大学長 中山 俊憲 (右)

本件に関するお問い合わせ・取材のお問い合わせ

千葉大学広報室 TEL 043-290-2018 / E-mail koho-press@chiba-u.jp

横浜国立大学学長室 TEL 045-339-3027 / E-mail press@ynu.ac.jp